

I - 1 . 埼玉県, 長野県における雑豆および雑穀類 在来種の探索収集, 生物研, 1988年

農業生物資源研究所 遺伝資源第一部 植物探索導入研究チーム

勝 田 真 澄

中川原 捷 洋

農林水産技術会議事務局連絡調整課 宮 下 進

群馬県館林市農業協同組合 飯 塚 清

Exploration and collection of food legumes and millets in Saitama and Nagano Prefectures, 1988

Masumi KATSUTA¹, Masahiro NAKAGAHRA¹,
Susumu MIYASHITA² and Kiyoshi IIZUKA³

1. Laboratory of Plant Germplasm Introduction, Department of Genetic Resources 1, National Institute of Agrobiological Resources, 2. Liaison and Coordination Div., Agriculture, Forestry and Fisheries Council, MAFF, 3. Tatebayashi Agricultural Cooperation, Gunma Prefecture

1. 目的

国内における在来品種は、旧来の食生活を続ける農家などが、自家用に栽培する品種として保存されてきた。これらの品種の中には、地域の気候特性や用途に適応した在来種が多く含まれている。しかし、農業就業者の老齢化にともなって、自家採種品種の栽培を行なう農家も年々減少の一途をたどっている。このような、地域特有の在来種の栽培状況を調査し、遺伝資源として保存・維持するため、関東周辺の地域において探索収集を行なってきた。

昨年調査を行なった群馬県上野村地域は、山間の急傾斜地域で、多様な在来種の栽培が続けられていることが明らかとなり、多くの雑穀・雑豆類を収集した。本年度は、群馬県上野村地区との県境に隣接する埼玉県秩父地方および長野県南佐久地方の山間地域において、雑穀および豆類を中心に在来品種の調査収集を行なった。調査地域は、埼玉県秩父郡吉田町・両神村・大滝村と新潟県北相木村のなかの群馬県上野村に隣接する地域である。これらの地域は、千m級の山を挟んで群馬県との県境に接する急傾斜な山間地である。

2. 調査方法

昭和63年11月9日より11日まで、調査は中川原、勝田、飯塚、宮下が中心となり農業生物資

源研究所業務科・吉田次男技官の協力を得て行なった。集落あたり1から2戸の農家を任意に選び、自家採種品種の栽培状況に付いて聞き取りを行ない、可能な場合は種子の分譲を受けた。

3. 調査地域の特徴

埼玉県秩父郡吉田町は、国道299号線や林道によって群馬県上野村との交流が行なわれているという。農地は、傾斜地で礫質の畑が多く、小規模な栽培しか行なわれていない。現在は、自家用に豆類・野菜類を栽培するほか、特産品の漬け菜の栽培を行なっている。しかし、近くを通る秩父鉄道によって都市圏への通勤が可能であることから農業への依存度は低かった。

両神村・大滝村は、吉田町よりさらに南の山間地であり、吉田町同様の傾斜地である。ここから、三国峠を越えた、長野県北相木村地区は群馬県上野村とブドウ峠によって通じている。しかし、山間の集落は林業が中心となっており、戸数も少なく、農業は自家用程度にしか行なわれていない。平坦地は佐久市に近く野菜の集約栽培や非農家が多い。

4. 在来品種の栽培状況と収集品種の特徴

いずれの地域においても栽培されている作物種類は少なく、品種の多様性も乏しい。今回多数の品種についての情報が得られたのは、郷土料理の会に属する農家（埼玉県吉田町）や、宿泊客に供するための材料を自家栽培するという民宿（長野県北相木村）などに限られており、多様な在来品種の栽培は一般的ではなくなっていた。また、栽培されている品種の名称や形態は各地域とも非常に類似していた。

収集点数はダイズ16点、インゲンマメ9点、アズキ6点、エゴマ4点、ソバ4点、トウモロコシ3点の他、キビ、モロコシなど計50点であった。

昨年の調査で多様な品種が収集された豆類については、どの農家でもアズキ・インゲンマメ・ダイズをそれぞれ1・2品種ずつ栽培しているのみであった。

アズキは赤小豆を1種類しか栽培していない。ダイナゴンと呼ばれているが、品種名がついていない場合も多い。

インゲンマメは全体的に種子の形態的な変異は小さく、白・赤紫・白地赤斑の3種に限られていた。秩父郡大滝村で「オオタキインゲン」と呼ばれていた品種も他の地区の白地赤斑インゲンと形態的に非常に類似している。また、北相木村宮の平で収集した「シロアズキ」は小粒のシロインゲンであり、この付近に近年栽培が広がっているということである。

ダイズは味噌用と枝豆用の2種類が栽培されている場合が多く種子色は黄色と緑色があった。とくに緑色の品種は、埼玉・長野県ともに「アオバツ（アオバタ）」とよばれていたが、昨年上野村で収集した「アオバタ」と称されていた味噌用品種とはことなり、「ヒタシマメ」等も含めて緑色種子品種の総称となっていた。宮の平で収集した「ノリマメ」は海苔のような香りがするヒタシマメの一種で北相木村では古くから栽培されていたという。偏平な緑色粒へその回りを中心に大きな黒色の斑があるのが特徴である。しかし、今回の聞き取り調査では、この品種を栽培している農家はすでに1戸のみであった。

雑穀類は、エゴマ、ソバなどが栽培されていた。エゴマは白粒種が中心であるが、埼玉県吉田町では「クロエゴマ」とよばれる雑草性の黒粒種を収集した。これがこぼれ種のエゴマに混入するため、この農家では、採種種子によってのみエゴマの栽培を行なっている。アワ、ヒエを栽培している農家はなかった。唯一収集したキビは、長野県相木村の民宿が宿泊客用に栽培しているものであった。

両神村中津川には「ナカツガイモ」とよばれる在来の馬鈴薯が栽培されていた。淡紅色の皮色をした芋で、小型（直径5cm以下）のいもが最も食味がよいという。煮芋に適しており、煮崩れしない。ソビエトから軍人が持ち帰ったものが定着した品種で地元の名産になっている。しかし他の地区（低標高地区）では蔓ボケして栽培できないという。

5. 総合考察

本年は天候不順のためそばや豆類などでは収量が著しく減少しており、翌年の種子の確保も困難な状況で収集にも支障があった。

しかし、今回収集を行なった地域で栽培されている作物の種類を見ると、総体的に農家の栽培は一種一品種であり、昨年調査を行ない多様な在来種が収集された上野村地区と比較すると非常に単純であった。今回の調査地域はすでに都市部の生活圏となっており、容易に日常食料品などが購入できることもあって、在来種の栽培はほとんど途絶えていると考えられる。それに加えて、農家の在来品種に対する嗜好も希薄であり、こうした住民性も在来種の栽培を急速に減少させた原因になったと考えられる。

今後は、長野県内の山間部を中心に探索調査を進め、新潟県の調査地と連続した地域へと広げて行く予定である。また、多様な在来種を収集するには特に旧来の食生活に興味を持つ農家を訪ねるのが有効であり、こうした情報を地域ごとに事前に得る必要がある。今回の調査の成果も、訪問した農家の方々の親切な協力によって得ることができたものであり、心から感謝したい。

Summary

Local varieties of several kinds of crops such as food legumes and millets are still grown in many places throughout Japan. They may potentially possess special characteristics as plant genetic resources. For example, some adaptability to their own areas and the suitability for special usage can be expected among them, since they have a long history of cultivation as endemic varieties. Those local varieties have, however, been decreased and replaced by modern varieties. This is the report on the field research works and plant collection carried out in hilly areas of Saitama and Gumma Prefectures from November 9th to 11th, 1988. A total of fifty samples were collected, which included soybean, *Glycine max* (16 samples), common bean, *Phaseolus vulgaris* (9), adzuki bean, *Vigna angularis* (6), perilla, *Perilla frutescens* (4), buckwheat, *Fagopyrum esculentum* (4), maize, *Zea mays* (3), common millet, *Panicum miliaceum* (1), sorghum, *Sorghum bicolor* (1), and so on. A large diversity of local varieties of the crops were not observed in those areas. All the collected samples of adzuki bean, which have a red seed testa, resembled each other. A little variation was found in common bean. There were three types of seed colors; 1) white, 2) reddish purple and 3) white mottled with red. Soybean is usually cultivated for two different purposes, soya paste ("miso") and boiled bean ("eda-mame"). A weedy form of perilla, which has black seeds, was collected in Yoshida-machi, Saitama Prefecture. Neither foxtail millet, *Setaria italica*, nor Japanese barnyard millet, *Echinochloa utilis*, were not cultivated there. The authors are very thankful to all local peoples who kindly provided them various important information on agricultural practices and seed samples for their study.

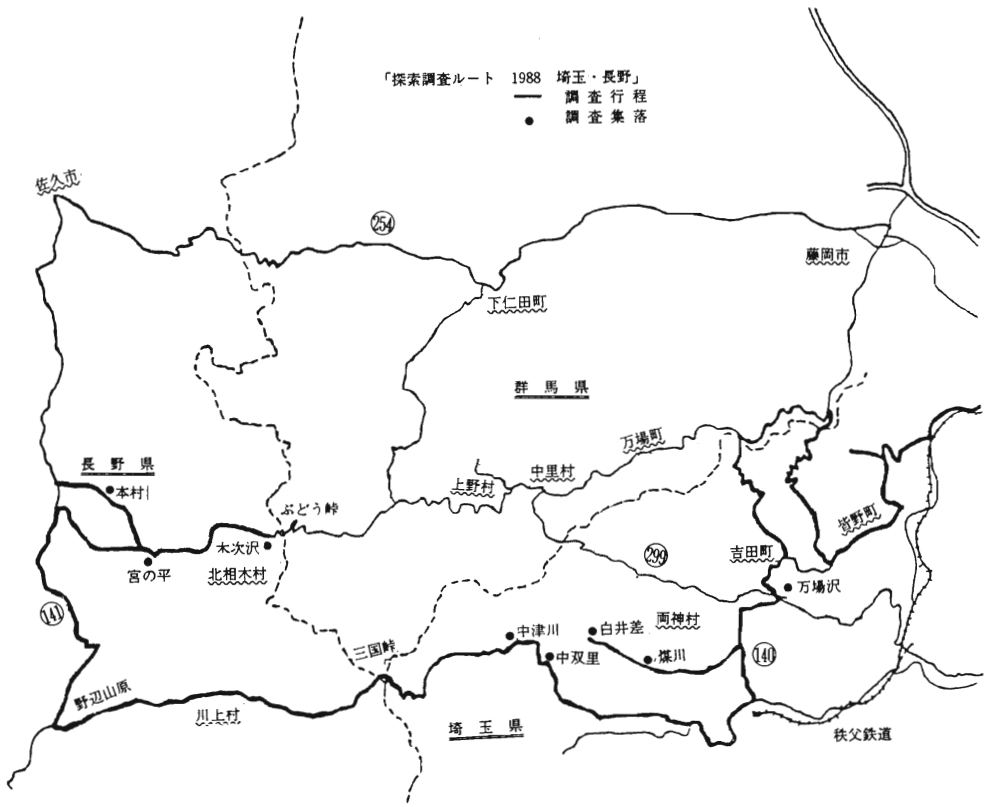


Fig. 1. A map of the exploration route in Saitama and Nagano Prefectures in 1988.

Table 1. A list of food legumes, millets and other crops collected in Saltama and Nagano Prefectures

収集番号	作物名	種 属 名	現 地 名 及 在 来 種 名	収集月日
880116	ソ ル ガ ム	<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ	11. 9
880117	トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	ハナトウモロコシ	〃
880118	ソ バ	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	〃
880119	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	ダイズ	〃
880120	エ ン ド ウ	<i>Pisum sativum</i>	エンドウ	〃
880121	ア ズ キ	<i>Vigna angularis</i>	ダイナゴン	〃
880122	ゴ マ	<i>Sesamum indicum</i>	キンゴマ	〃
880123	インゲンマメ	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	〃
880124	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	ユガキマメ	〃
880125	ソ バ	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	〃
880126	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	クロマメ	11.10
880127	エ ゴ マ	<i>Perilla frutescens</i>	エゴマ	〃
880128	〃	〃	エゴマ (クロエゴマ)	〃
880129	インゲンマメ	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	〃
880130	ア ズ キ	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃
880131	シ ソ	<i>Perilla frutescens</i>	ムラサキジソ	〃
880132	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	コマメ	〃
880133	インゲンマメ	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	〃
880134	ア ズ キ	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃
880135	ソ バ	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	〃
880136	エ ゴ マ	<i>Perilla frutescens</i>	エグサ	〃
880137	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	アオバタ	〃
880138	トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	〃
880139	〃	〃	〃	〃
880140	〃	〃	〃	〃
880141	インゲンマメ	<i>Phaseolus vulgaris</i>	オオタキインゲン	〃
880142	ア ズ キ	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	〃
880143	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	ダイズ	〃
880144	エ ゴ マ	<i>Perilla frutescens</i>	エゴマ	〃
880145	ダ イ ズ	<i>Glycine max</i>	アオバタ (ヒタシマメ)	〃

NIAR, Saitama and Nagano, Multi-crops No. 1

収 集 地 (標高m)	特 記 事 項 (用途など)	備 考
埼玉県秩父郡寄居町末野 (140)	ほうき, 米と混ぜて餅にする	
〃	ポップコーン? 花材	
〃	そば, そばがき	
〃 皆野町浦山 (480)	煮豆, 豆腐, 通常2~3粒/莢	
〃	種子色赤青混	
〃		
〃 吉田町和田 (248)		
〃 石間沢戸 (470)		
〃	ひたしまめ, 節分まめ	
〃	そば, そばがき (醤油だけ入れる)	
〃 大字下吉田 (300)	煮豆, 近所より入手	
〃	田楽みそ, 餅に混ぜる	
〃	食べない, 白エゴマのこぼれ種, 葉の裏紫, 表は緑	
〃		
〃	数年前近所より入手	
〃	梅干し, やや縮葉	
〃 両神村煤川 (710)	みそ・煮豆, 戦前から作っている	
〃		
〃		
〃	そば, そばがき, 白花赤茎	
〃 (740)	あえ物(煎って酢を入れてすりみそ醤油であえる)	
〃 (710)	煮豆用(ひたしまめにはしない), 44年間作っている	
〃		
〃 原沢 (410)	とかん(ポップ)用に小鹿野町より入手, 白色粒	
〃	〃 黄色粒	
〃 大滝村大字中津川 (855)		
〃		
〃	みそ	
〃		
〃	濃緑色粒, へそ黒	

NIAR, Saitama and Nagano, Multi-crops No. 2

収 集 地 (標高m)	特 記 事 項 (用途など)	備 考
埼玉県大滝村大字中津川 (855)	白粒	
〃	赤紫色	
〃		
長野県北相木村木次沢 (1250)	枝豆・ひたしまめ, 濃緑色粒, へそ黒	
〃	みそ, へそ褐色	
〃	やや小粒	
〃 宮の平	あえ物(胡麻の代り)4月から6月まで播種可能	
〃	もち	
〃	そば, そばがき, 白花赤茎	
〃	煮豆, 淡緑色粒	
〃	ひたしまめ, 偏平粒, へそ黒	
〃	ひたしまめ (数の子と和えて正月用)	
〃	みそ, 淡褐色小粒, へそ黒	
〃	ひたしまめ(浸して餅に混ぜる), 海苔の香りがする, 緑色粒黒斑偏平粒	
〃	赤紫楕円粒, へそ白	
〃	白色粒	
〃	煮豆 (祝い事には使わない)	
〃	ひたしまめ, やや濃緑色, へそ黒	
〃	やや小粒	
〃	白色小粒, 最近作り始めた品種	
小海町親沢 (1150)	あえ物(胡麻の代り)4月から6月まで播種可能	
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		
〃		